

真名川ダムの弾力的管理試験「フラッシュ放流」について

1. 真名川ダムの弾力的管理試験「フラッシュ放流」について

真名川の河川環境の保全を目的とする弾力的管理試験の一つとして「フラッシュ放流」を実施します。フラッシュ放流とは弾力的管理による活用容量（洪水調節に備えた空き容量の一部に貯めた水）の水を数時間放流し、河床を洗浄することで、健全な河川環境を保全するための一つの方法です。（フラッシュ flush とは排砂、掃流のこと）

釣り人や川遊びの人たちの安全のために、下記内容の事前報道をお願いします。

真名川ダムでは、平成17年12月8日(木) 午前9時から、河川環境の保全を目的としてフラッシュ放流の試験を実施します。この試験にともない、ダムより下流の真名川では、急激に水かさが70cm～160cm程度増加します。

放流時はサイレンによる警報及び巡視により、事前にお知らせしますので、すみやかに川から上がってください。ご協力をお願いします。

2. 真名川ダムの弾力的管理試験の流れ

- 平成12年度～14年度の試験では、ダムから真名川頭首工（五条方地先）までの約4kmの発電利用のための減水区間で「維持流量を増量することで、景観の向上及び藻類の生育に好適な環境を整えることによって、魚類の生息環境が改善される」という検討結果をまとめました。
- 平成15年度は真名川頭首工より下流の河川環境の保全を目標として、真名川の河床の攪乱を目的とするフラッシュ放流（30 m³/s）の試験を実施しました。この放流により河川礫の洗浄効果がみられました。
- 平成16年度はフラッシュ放流（50m³/s）に河川土砂還元（ダム貯水池内の堆砂を採取し、下流河川へ運搬・置土）を組み合わせることにより、フラッシュ放流の効果を増大させる可能性について試験を実施しました。これより土砂還元が藻類の剥離に効果的であることが確認されました。
- 平成17年度は藻類の生育が活発な8月にフラッシュ放流（30m³/s）を実施し、魚類の生息環境の改善効果を調査しました。この試験により、八千代橋（ダム下流約6キロ）の上流では付着藻類の剥離効果が見られましたが、下流では上流に比べ、少ない結果でした。
- 今回の試験では、真名川ダムから40 m³/s の放流に併せて、君が代橋上流付近（ダム下流約9キロ）の河川に土砂を投入し、フラッシュ放流の効果を確認する試験を実施します。

3. 真名川ダムからの放流方法

午前9時、ダムから放流開始、急激な下流の水位上昇を避けるため徐々に増量し、午前11時頃から午後13時頃まで最大40 m³/s(トン)を放流します。その後、徐々に放流量を減量させ、午後15時過ぎに通常の放流量(毎秒0.67 m³/s)に戻します。

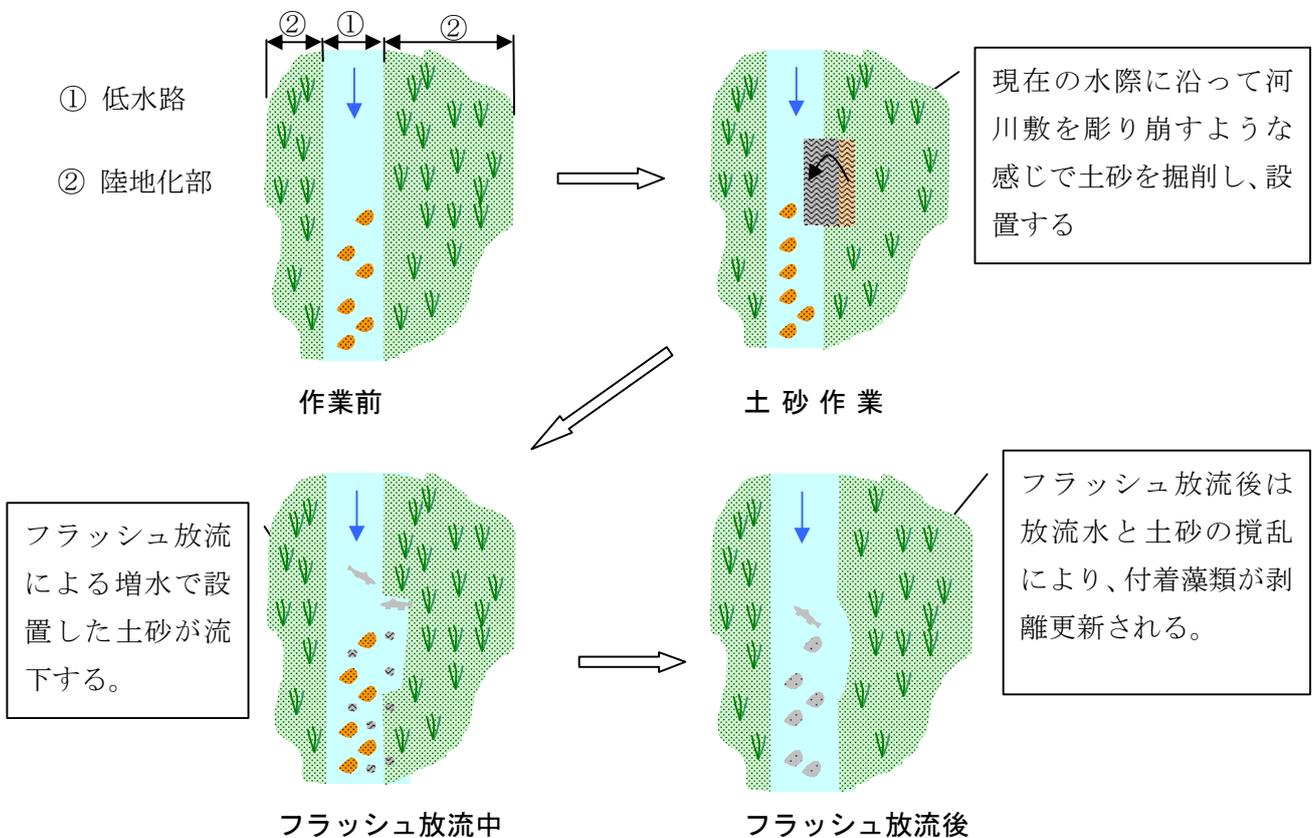
下流の各地点で水位が上昇始める時刻予定は、真名川ダム下流約6キロ地点の「八千代橋」で午前10時30分頃、同約10キロ地点の「富田大橋」で午前11時頃。フラッシュ放流により、水位が上昇している時間は最大で8時間程度続きます。

ダムからの放流のスケジュールは、別紙「真名川ダムからの放流による真名川的主要地点の流量変化予想」のとおりです。

放流を実施するにあたり、河川の巡視に加え、河川利用者(釣り人等)の安全確保を徹底するため、河川への出入り口には警備員の配置、河川への立入禁止の看板を設置します。

4. 土砂投入を組み合わせたフラッシュ放流

真名川ダム下流では、ダムの調節により大きな洪水が起こらなくなったことから、砂礫の河原は陸地化し、川底の礫はあまり動かない状態です。本試験では陸地化部の砂礫を掘削し、河道に流す自然再生効果の高いフラッシュ放流を実施します。



河川敷における掘削の方法

5. 土砂投入を組み合わせた弾力的管理試験「フラッシュ放流」のイメージ

